

事務事業評価シート(事後評価)

事業コード 10-4-4	事務事業名 郷土資料室の運営	所管部課 教育部 社会教育課
-----------------	----------------	-------------------

施策コード 創3-4	施策名 芸術・文化活動の振興	施策目標 市民の芸術・文化活動を支援するとともに、郷土の歴史である文化財を保護し、地域文化を大切にすまちをめざします。
---------------	-------------------	--

事務事業の概要	事務事業の目的	根拠法令等
	①市民の郷土史に対する理解を深める。 ②郷土史の理解に必要なアドバイス及び情報提供を行う。 ③郷土史上必要な文化財等の収集・展示、保存に努める。	<input type="checkbox"/> 法律 <input type="checkbox"/> 条例・規則 <input checked="" type="checkbox"/> 政令・省令 <input type="checkbox"/> 要綱・要領
	事業内容・実施方法等/補助の概要：補助団体の概要(団体名・団体の活動内容・補助金の活用内容等)、補助金の概要(国・都基準の有無・対象者拡大の有無・上乗せ補助額・市単独補助額)等 ※該当する予算事業名・節目を明記する 文化財の収集・整理・活用のほか、市民の学習や知識の発表の場となるなど多様な役割が求められている。そのため、来客者への展示等説明、資料のデータベース化、郷土資料室での事業実施、出前事業等の取り組みを更に進めて行く必要がある。 (10.05.05.01郷土資料室運営管理費)	
	事業開始時期 平成15 年度 実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

項目	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
事業費(A)		3,276	3,147	3,365	3,364
財源内訳					
国庫支出金・都支出金		0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0
その他 ( )		0	0	0	0
一般財源		3,276	3,147	3,365	3,364
所要人員(B)	人	1	1	1	1
人件費(C)=平均給与×(B)	千円	8,080	8,165	7,698	8,234
臨時職員賃金等(C')	千円	2,316	2,135	2,184	2,247
総コスト(D)=(A)+(C)+(C')	千円	13,672	13,447	13,247	13,845
単位当たりコスト (E)=(D)/(郷土資料室入場者数)	千円	6	6	6	0

活動等指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
① 郷土資料室開室日数	実績値 日数	245	256	255	
②	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 郷土資料室の年間開室日数					
成果指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度
一次 郷土資料室入場者数	目標値 人数	3,000	3,000	3,000	3,000
	実績値 人数	2,246	2,286	2,311	
二次	目標値				
	実績値				
《指標の説明・数値変化の理由 など》 郷土資料室の年間入場者数					

事業環境等	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	郷土資料室の説明文が、小学生には理解しにくいという意見がある。 郷土資料室は、公共交通上不便という意見がある。	
	都内26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 中 <input checked="" type="checkbox"/> 下	近隣市のほとんどが文化財係等があり、正規職員が配置されている。無いのは当市のみである。施設管理と事業を抱えながら、体制が整っていないのは問題である。
	代替・類似サービスの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	代替・類似サービスは無い。

事業コード 10-4-4	事務事業名 郷土資料室の運営	所管部課 教育部 社会教育課
-----------------	----------------	-------------------

施策コード 創3-4	施策名 芸術・文化活動の振興	施策目標 市民の芸術・文化活動を支援するとともに、郷土の歴史である文化財を保護し、地域文化を大切にすまをめざします。
---------------	-------------------	---

【一次評価】

検証項目	ランク	一次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	3	<p>現状の事業実施方法としては、郷土資料室の展示にとどまらず、文化財保護専門員（嘱託員）等と協力体制をとり、市内小学校の社会科見学受入、学校へ展示物等を持参しての出前授業、夏・冬休みの企画事業を行っている。その結果、市民の文化財保護への関心は高まっており、来室者の増加も見られ、実施事業への市民ボランティアの協力も広がりを見せているが、郷土資料室の管理運営については、文化財指導員（嘱託職員）1名が担っており、さらに嘱託職員という雇用形態では、市民のニーズに応えるべく事業の充実を図ることは非常に困難であり、現体制での目標来客者数到達は困難である。</p> <p>対応策として、郷土資料室を執務室とする文化財係を設置し、常勤の学芸員等の専門職員の配置により、文化財保護行政を効率的、集中的に推進する。または、資料室の企画展示等の作業を文化財指導員が集中的に行えるよう、現在5日の開室日を、来室者の多い土日等に絞る等、抜本的な運営の見直しが必要である。</p> <p>施設面の課題としては、収蔵物の保護（高温多湿による劣化防止、盗難防止）及び来館者用に空調設備の設置が望まれる。また、来館者の利便性の向上のため、バリアフリー化や展示室の整備（展示を見やすくリメイク）、収蔵スペースが飽和状態であるため、恒久的な施設も必要である。</p>
	事業の必要性	3	
	事業主体の妥当性	2	
B	直接のサービスの相手方	3	
	事業内容等の適切さ	2	
	受益者負担の適切さ	3	
C	市民ニーズの把握	2	

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【二次評価】

検証項目	ランク	二次評価	○検証項目、評価の判断理由 ○事業実施上の課題や今後改善すべき点等
A	事業の優先度 (緊急性)	2	<p>遺跡や資料などのデータベース化は途中であり、その資料が十分に把握され整理されている状況とは言えない。また説明文が理解しにくいなど、課題がある。</p> <p>そのため、まず土・日・祝日・団体利用日は優先開館し、他の日については可能であれば、閉館することも考慮して、資料の整理、データベース化や展示物の整理を優先することが必要である。また、バリアフリー化や空調設備の不備など設備面での課題があるため、今後検討する必要がある。</p> <p>また、郷土資料館のあり方を含め文化財行政に対する方向性についても、次期教育計画で検討していく必要がある。</p>
	事業の必要性	2	
	事業主体の妥当性	3	
B	直接のサービスの相手方	3	
	事業内容等の適切さ	2	
	受益者負担の適切さ	3	
C	市民ニーズの把握	1	

検証項目の見方 A:事業実施の意義を検証する項目 B:事業の内容・実施方法を検証する項目 C:市民ニーズの反映度を検証する項目

【行革本部評価】

行革本部評価	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>本事業は、郷土の歴史である文化財を保護し、市民の郷土に対する理解を深めるための学習や知識の発表の場となることを目指すものであり、本事業の必要性については認められる。</p> <p>一方で、現在の事業実施手法については、体制面・施設面で多くの課題を抱えており、こうした課題への対処が必要である。それに向けては、二次評価において指摘のとおり、まず、本施設のあり方について、明確な方向性を打ち出すこととし、そうした方向性に沿う形での見直しを図ることにより、課題の解決に当たられたい。</p>